



the most beautiful
villages
in japan
日本で最も美しい村連合

お問い合わせ

☎0967-42-0047

 南小国町教育委員会

〒869-2401 熊本県阿蘇郡南小国町大字赤馬場144-1



 南小国町立 南小国中学校

〒869-2401 熊本県阿蘇郡南小国町大字赤馬場1833
TEL 0967-42-0034

ホームページ


<https://jh.higo.ed.jp/moguni/>



チャレンジする・協働できる子どもを育てる

まち インターン



 南小国中学校

「まちインターン」に関する問合せ先

 南小国町教育委員会 ☎0967-42-0047





まちインターン

1

What

「まちインターン」って何？

海外で生まれ、日本では2000年頃から普及が進んできたインターンシップ。

南小国中学校の「まちインターン」は課題協働型インターンシップとして、事業所の皆さんの「働く」ことに対する思いや大事にしていることを取材した上で、3日間の中で「その事業所のファンを増やす」ことを目的に、事業所の皆さんと主に協働するインターンシップです。

2

Why

なぜ「まちインターン」が始まったの？

今の中学生たちが社会人になる10年後、人工知能(AI)やロボットが一般化し、人が担うべきことが変わっていくと言われています。

だからこそ、中学生の時から「地域社会の一員として学ぶ」「誰かと一緒にチャレンジ・取り組む」「机上ではなく、実践から学ぶ」ことを大事にしたいと考え、町の皆さんのご協力のもと「まちインターン」が2019年度から始まりました。

また、日本は少子化および人口減少が加速しており、この南小国町も例外ではありません。

人生100年時代、どんな環境・社会状況になっても、他者と協働し、新しい価値を創造する力、めげずにチャレンジする力が大人にも子どもにも必要です。

3

Merit

「まちインターン」を受け入れるメリット

まちインターンとして事業所に来る生徒たちは即戦力になりません。一時的に増えた労働力でもありません。

「まちインターン」の『事業所のファンを増やす』という目的は、どんな事業でも大事になるマーケティング・広報戦略の基本になります。ファン作りというテーマを通して、若者ならではの視点や感性と実務経験のある事業所の皆さんが協働することにより、これまでにない新たな価値が生まれるはずですよ。

しかし、インターン生の強みを活かすことで、事業変化や組織変化を獲得している事例は数多くあります。



まちインターン 3日間の流れ

事例紹介

Fablab阿蘇南小国様

まずは 事前打ち合わせ



生徒が、顔合わせと挨拶にお伺いし

- この仕事を始めたきっかけ
 - この仕事で会う人
 - これまでで心に残っている出来事
 - この仕事の醍醐味や魅力
- などを取材する。

「ファンを増やす」→ 目にする・役立つ機会を増やすと設定。

活動テーマ 3日間で、旅館に置いていただく
サイドテーブルをデザインし、納品する



1日目

- 業務の簡単な説明。
- 製作物を置かせていただく旅館に伺い、実測。
- ポストイットにアイデアを書き、デザイン会議。
- CAD練習。
- 図面作成。



2日目

- 実際に3Dモデリングによりシミュレーション。
- 切り出した木材を組み立ててみる。
- 触っても怪我しないように丁寧にやすりがけ。



3日目

- 手作業でやすりがけ。
- 組み立て。
- 納品、実際に旅館に置かせていただき使い心地の確認。
- 手掛けたものを誰かにお渡しする体験

受け入れに向けた心の準備

事業所にとっての「ファン」とは？ を考えておく。

事業所それぞれで「ファン」の定義は違うと思います。購入し続けてくれる人か？口コミを書いてくれる人か？ そのきっかけは何だったのか？ これまではどんな風にファンと関係性を築いてきたのか？ 生徒と共に取り組むためにもぜひ考えておいてください。



小さな成功体験を 大事に。



学生に限りませんが、小さな成功体験で自信をつけることで、人はどんどん大きなチャレンジをできるようになっていきます。これからの人生で大きなチャレンジがどんどんできるよう、小さなことでも「出来た」ことを認めるサポートをお願いします。

指示は明確に。

いつも事業所に一緒にいるメンバーではありませんので、「適当にやっておいて」の適当さが生徒は分かりません。お手数ですが、「×切」「期待してること」などは伝えてくださいますようお願いいたします。

生徒にも
わかりやすく
明確に！



1日を振り返る。

期間が短い中で、最大限生徒たちが成長し、事業所の皆さんにとっても「受け入れてよかった」と思える成果が出るようにと考えております。そこで、1日が終わった後、生徒が日報を書く時間をとっていただき、その日報を見ながら

- 感想や今日の気づき
- 明日の予定確認
- 明日の目標(生徒一人一人が設定)



を事業所のどなたかと話す時間を、10分でも構いませんので確保いただけますようお願いいたします。